

巣舞る通信

第22号 2013年6月 初夏



2013年 社聴熟（しゃちょうじゅく）が、まさに熟してきました！

(株)高田建築事務所
代表取締役
高田清太郎

向夏の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は格別のお引き立てをいただき、ありがたく御礼申し上げます。

何時ものように朝、田圃道を散策していると空高く雲雀が舞う声が聞こえてきます。

植えられた苗が水鏡と化した田圃に揺らいでいます。小川のせせらぎは心の底まで安らぎを与えてくれます。とてもさわやかな季節、一日の始まりに大きなパワーを頂いてくることが出来るのは何という恵みだろうか。

5月の大型連休！いかが過ごされましたか？1960年代「巨人・大鵬・卵焼き」（野球は巨人・相撲は大鵬・食べ物は卵焼き：誰でも好きなものを歌ったもの）と言われた巨人全盛期のミスター長嶋茂雄氏・そしてゴジラの愛称で人気者の松井秀喜氏がそろって国民栄誉賞受賞しました。TVでは二人の良き師弟関係が伝えられ、とても礼儀正しく謙虚姿勢の松井氏の引退セレモニーも東京ドームで同時に行われ、脳梗塞を患ってリハビリに励んでいた長嶋氏の肉声を聞くことも出来、多くの人に力を与えたセレモニーになりました。

弊社の連休は暦通りで、5月1日（水）特別編の社聴熟（スタッフ全員参加）がAPMにて開催されました。APMの第18回美術館大学「高田清太郎の建築デザイン哲学展」秋山孝先生と私との対談が4月20日に行われましたが、その続編的なものです。タカモクの歴史は63年・私と同年である！のポスターにスタッフから質問がありました。「社長が歩んできた今までの63年は分かりましたが、これから63年後の我が社はどのようになりますか？」という良き質問です。それに対する私の答えは、「ハード的にはめまぐるしく変化するだろう。鉄腕アトムに描かれた様な風景なのか？スマートシティの風景が近々にやって来るのかもしれない。しかし、タカダの経営理念にある様に我が社の大切な経営哲学からは“個々のスタッフのレベルが上がり、人間性豊かな集団になるだろう。なっしてほしいと思っている。また一人一人はスペシャリストから多能工化し、その上でますます個性ある巣舞づくりを展開しているだろう。一方で性能重視・生産性重視から規格化住宅が大量生産されるが、一方では個性ある巣舞づくり・物語性のある巣舞づくりが要求されるのである。私達の仕事は建築創造であるが、実は感動創造会社なのである。CAN DO（カンドー）！（必ずできる）である。“個性ある巣舞づくり”と同時に“個性豊かな間知づくり”も更に追及されるだろう。巣舞づくり・建築だけでなく：当社の建築哲学としての原点は居場所探しの旅である。居場所探しの旅にまつわる様々な仕事当社によっても提案されていくだろう！3つのNEがい（Needs・Neo・Necessary）は今後とも大切である。」夢多き、楽しみな63年後になりそうです。

* 新潟県建築士事務所協会の建築作品コンペ入賞しました。

2013年第21回新潟県建築士事務所協会建築作品コンペに於いて、「サポートセンター川崎「ツウイング」」が優秀賞（一般建築部門）を受賞！「厩（うまや）のある家」が奨励賞（住宅部門）を受賞しました。とても嬉しいことです。何よりも自分たちのやって来た仕事が評価されるのですから、スタッフの顔も明るくなり、来年も参加していこうと無言の空気になります。ご協力頂きました皆様、ありがとうございました。

* 3.11震災から2年が経過。今年もボランティア活動おつかれさまでした。

3月7日・8日の2日間、タカダスタッフと木族の会の有志（総勢49名）が被災地にボランティアに出かけました。今年で第2回目のボランティア活動。現地の受入れ側担当者の指示に従い動くのですが、昨年も参加したスタッフの感想は、堆積した土等は固化し、その上、手作業なので仕事も中々進まず、また今回は広大な畑であった部分の土から瓦礫を除く作業で、しかもほんの一部の面積しかできなかった。虚無感も覚えたとの報告は現地復興の状況を伝えるに充分でした。それでも風化させない努力は届くかもしれない。無関心駅発の忘却路線だけは、避けたいものです。参加者の皆さん大変お疲れ様でした。

* 長岡まつり「バスピアス超大型スターマイン」打上げます。

8月3日（土）今年も高田建築事務所と愉快的仲間たちが、日頃お世話になっている皆様へ感謝の気持ちを込めた花火を元氣よくド〜んと打ち上げます。ご期待ください！！

* 育夢創造「第2回KIDS絵画コンクール」開催します。

今年は、アオーレ長岡で表彰式や作品展をさせて頂く予定です。夢のある作品を募集します。詳しくは、3面をご覧ください。

